

令和5年度第2回「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」干潟観察会の概要

- 日 時 令和5年7月16日(日) 11:00~15:30
- 場 所 阪南2区人工干潟(岸和田市)
- 主 催 CIFER・コア、共和海建グループ、きしわだ自然資料館
- 参加者数 87名 (CIFER・コア21名 (うち岬中学校生徒6名)、共和海建グループ17名、きしわだ自然資料館49名 (うち子供19名))
- 行 程
- 11:00 岸和田地藏浜マルシェ前集合、挨拶
 - 11:15 出航 (交通船3隻に分かれて乗船)
 - 11:40 阪南2区西端で迂回して阪南2区棧橋に着岸
 - 11:50 きしわだ自然資料館の柏尾 翔氏より、講師の紹介と注意事項の説明
 - ・大古場正氏 (大阪湾海岸生物研究会)
 - ・山田浩二氏 (貝塚市立自然遊学館)
 - ・澤田智子氏 (貝塚市立自然遊学館)
 - 12:00 干潟観察
護岸清掃 (共和海建グループ)
 - 13:10 帰港
 - 13:30 昼食 (BBQ とカキ料理) ほか
 - 14:30 ハーバーステーションで展示物説明
 - 14:35 採取生物の同定と講師による説明 (鰯巾着セリ場)
 - 15:30 終了 (堺泉北埠頭(株)からノート・ペンの配布)



○活動内容

朝から暑い日差しのもと、今年度第2回目となる「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」を開催しました。干潟観察会は、きしわだ自然資料館が募集した40名の定員に対して4.3倍の171名の応募があり、開催のたびに人気が高まっています。今回は、平成27年からCIFER・コアとともに深日漁港干潟の生き物調査を行っている岬中学校科学部の生徒さん6名の参加もありました。

干潟に向かう船の中では、大阪港湾局の三木氏が阪南2区の成り立ちについて説明されるとともに、近年激しさを増す海の災害について注意を呼びかけられました。また、共和海建グループは暑さ対策のためにテントの設営と飲料水や氷の準備をされ、都市整備推進センターは安全対策のために水際に人を配置されるなど、猛暑の中、参加者が安全に楽しんでいただけるような対策が取られました。

干潟の観察では、講師の指導を受けながらマテガイやカキ等の採取を行いました。なお、干潟背後の葦原はコアジサシとシロチドリの産卵期のため、立ち入り禁止となりました。

帰港後は鰯巾着のセリ場で、講師の指導を受けながら採取した生き物の同定を行いました。会場には共和海建グループの石田氏が付近の海で採取したウナギ、エイ、タコ等を入れた水槽が設置されました。

観察会はきしわだ自然資料館のアンケートでも好評で、「このようなイベントは大切であり、今後も続けてほしい」との意見が多かったとのことでした。



出航の様子



栈橋で下船して干潟へ



共和海建Gによる護岸の清掃活動



干潟の危険生物などについて説明



干潟観察会の様子



岬中学校の採取生物



塩を使ったマテガイの採取



マテガイ



中仕切り提付近の岩場ではカニ類が多く見られた



ハクセンシオマネキの姿も



Harbor Station で人工干潟の説明



採取生物の種の同定作業



周辺の海で採れた魚などを入れた水槽